



令和4年度 12月 人権一口講座



「〇〇ガチャ」という言葉遣い

小さなお子さんが親御さんやおじいちゃんおばあちゃんに、一度はおねだりしたことがあるおもちゃに「ガチャガチャ」がありますよね。大人でも自分へのご褒美で引く人もいるとか。透明カプセルに入ったもので、本屋さんやおもちゃ屋さん、旅行先のホテル、旅館などあらゆる場所に置いてあり、流行っているキャラクター人形などが入っているものや食パンなどの食物スクイーズ（低反発の粘土のようなもの）、商品など、子どもにとっての宝物がぎゅっしり詰まっています。最近では、スマホのゲームにも「レア素材を引くガチャ」というものがあるようです。

そのようなガチャという言葉が現代では、努力では到底解決できないことや運が良くなかったというマイナスな意味合いで使われているようです。

配属ガチャや上司ガチャは組織の中で意に添わぬ現状に対しての言葉になります。企画職を望んでいたのに違う営業職に配属された“都心部希望だったのに配属先が地方になった”といった場合に使うそうです。配置転換は人事を扱う側からすれば考えてのことで、経験を積むという観点もあるのですから、落ち込むだけでなく「自分への試練と思うことも大切だ」とそう考えて欲しいのです。

また、「親ガチャ」という使い方もされるようで、どの親の下に生まれるかで、子どもの人生が大きく左右されるという使われ方です。そこには、貧困の家庭では貧困の連鎖しかないという嘆きがあるように感じます。

確かに世帯収入が多い裕福な家庭では、学習塾費用などに使えるお金に余裕があるので、子どもが努力して取り組めば理解度も高くなるでしょう。数値として内閣府の調査でも、家庭の貧困が子どもの学習理解や進学を阻んでいるという結果も出ています。だとしても、どんな家庭に生まれるかは運次第のように軽く使われるのは、言われる側の親にしてみれば不名誉なことと感ずることでしょう。親御さんはたゆまない努力を重ねてきて、どうしても裕福になれなかった、という場合もあるでしょう。親がギャンブルや酒に依存し家庭崩壊を招いたなどの背景がある場合以外は、親御さんに全ての責任を転嫁する風潮はどうであらうか、と思います。

「親ガチャ」というその言葉を使う現代の若者が、将来自分の子どもから同じような言葉遣いがあったら、さて、どのように思うでしょう。いろいろな社会的要因により貧困層が増えてきている現状や親による子どもへの虐待、ヤングケアラー問題などで、心無いこのような言葉が出てくるのは必然なのかもしれませんが、私はこの言葉を耳にするとき、心が痛みとても悲しい気持ちになるのです。

短いメッセージ ありがとうとか がんばれとか
ひとをあたたためるんだよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 杉上小学校一年 野口颯佑さんの作品より